論文

（14）アングリュ玉軸受の玉の三次元運動計測

（静止軸受座標系計測のホール素子による計測）

中島 晃**

(1947.1生) 張 晨晨**

(1967.5生) 馬渡 俊文**

(1966.1生)

古田 宗文**

(1947.6生)

東庫 康靖**

(1957.10生) 松本 将**

(1944.10生)

転がり軸受が高荷重高速度運転されると、転受面での油膜形成環境が乱れ、摩耗しやすくなる。このため、転がり軸受の特性を検討する上で、油膜の形成過程を把握することは重要である。特に、油膜の形成過程を把握することは、油膜の厚さや厚さの変化を理解し、軸受の信頼性を向上させるために不可欠である。油膜の形成過程を把握するためには、転がり軸受の特性を検討する必要がある。

本研究では、アングリュ玉軸受の玉の三次元運動計測を編成した玉軸受を用い、実験装置を用いて計測を行った。計測に用いた装置は、高速度油膜の形成を模擬するために設計されたものである。計測結果は、転がり軸受の特性を把握する際に重要である。